

聴覚失認者にはどんなチャイムが注意喚起になるのだろうか

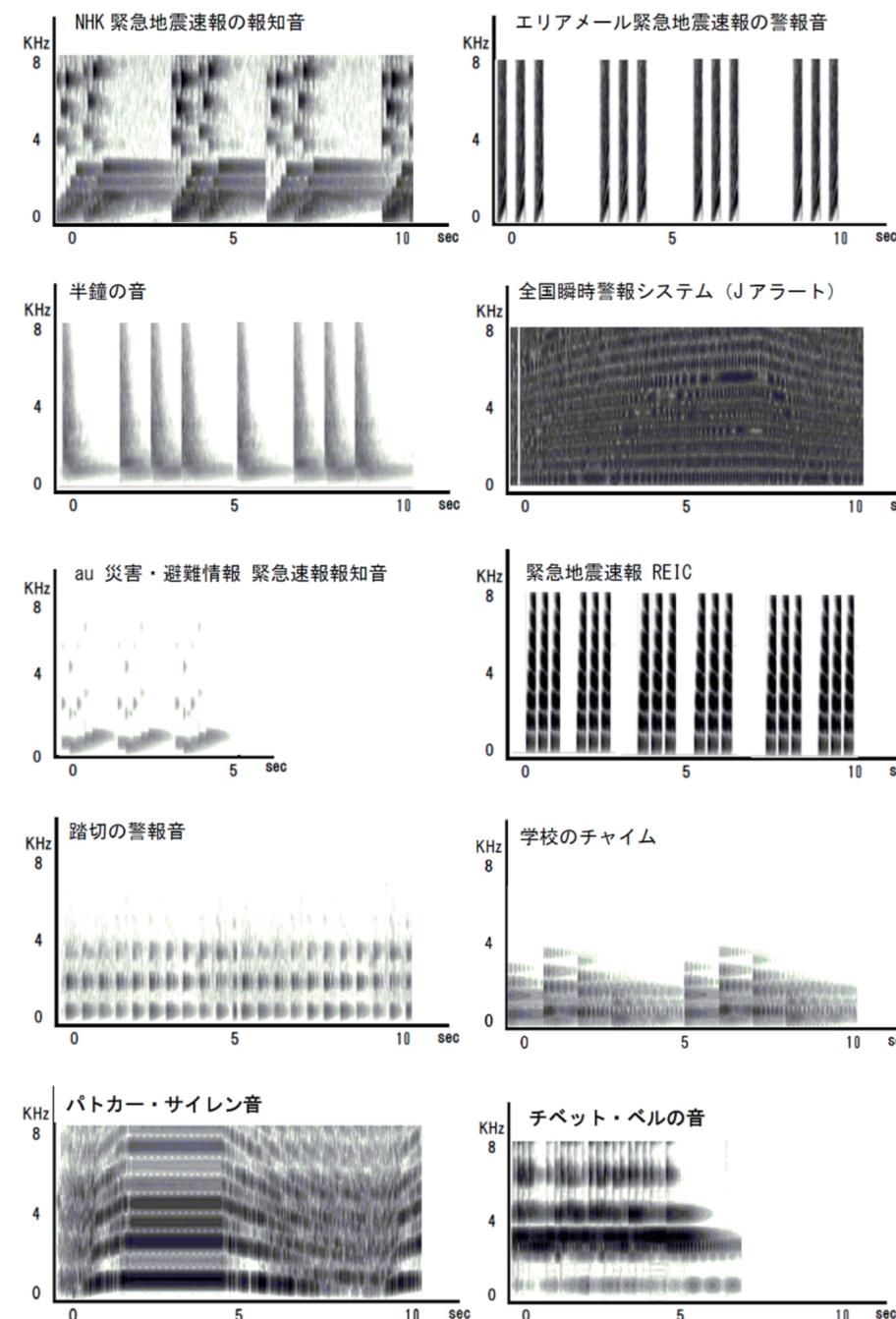


自然・環境再生研究部 コミュニケーション・デザイン研究グループ 三谷 雅純

緊急災害放送のような避難情報は、難聴者にも聞こえやすいチャイムが選ばれます。有名な例ではNHKや気象庁が使う緊急地震速報です。地震速報は人によって「聞こえない」ということがあってはならないため難聴の方に聞こえやすいチャイムを選びます。北海道大学で福祉工学を研究していた伊福部 達さんの成果です。

ところが聴覚失認者は、耳の聞こえは問題がないのに、脳に届いた言葉が機械の音のように聞こえて何のことだかよくわかりません。また注意喚起のために災害情報の前に発信されるチャイムも、聴覚失認者への注意喚起力は不明です。聴覚失認者に対しては、十分な対処法がわからないのです。わたしは聴覚失認者といっしょになって、日本で使われているさまざまなチャイムの注意喚起力を調べてみました。実験では、聴覚失認者が苦手な言語音、つまり普通の言葉ではなく、柄や数字の暗記をしてもらいました。

すると聴覚失認者には、NHK 緊急地震速報警戒音、半鐘の音、全国瞬時警報システム(Jアラート)、au 災害・避難情報 緊急速報報知音、緊急地震速報 REIC、踏切の警報音、学校のチャイム、パトロールカー(警察車両)のサイレンが、聞き取りにくいことが分かりました。成果は三谷 (2019)「聴覚失認者に認知しやすいチャイム音は存在するか」(福祉のまちづくり研究 21) に載っています。今はさらに言語音でどうだったかをまとめています。



実験に使ったチャイムをソナグラムで視覚化した図